



# 林 声

2022

1

月号



県内各地の森林をご紹介します「様々なスタイルの森・おかやま」。今回は、新見市哲西町にある「J Tの森鯉が窪にいみ」です。新見市有林において企業との協働の森づくりが進められています。平成30年度には区域内に少花粉スギ苗木(約600本)を植栽し、モデル林として整備しています。(詳細はP3に記載)

## 目 次

新年のごあいさつ .....	2	令和3年度ふれあいの森林づくり表彰 .....	10
様々なスタイルの森・おかやま		技能講習等情報 .....	10
～J Tの森鯉が窪にいみ～ .....	3	林産物市況 .....	11
がんばる林業事業体(鏡野町 前田林業(株)) ..	4	森林・林業施設の紹介	
普及指導区の情報(高梁普及指導区) .....	5	(遙照山「藤波池キャンプ場」) .....	14
研究だより			
(ナラ類集団枯損についての調査研究) .....	6		
研究だより			
(香りを評価指標とした乾燥技術の開発) .....	7		
岡山県における花粉発生源対策の取組み .....	8		
木材利用促進法の法改正と県産材の利用促進 ..	9		

### 【ほっけ～木になる情報】

Q 銃猟を始めるために必要な手続きと、猟銃の安全な取扱いについて学べる機会がありますか?  
(答は13ページ)



◎岡山県マスコット「ももっち・うらっち」





新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素から当会の運営につきましては、格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、依然として新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、外国産木材の不足等に伴う木材価格の高騰、いわゆる「ウッドショック」と言われる状況が発生し、林業・木材産業にも様々な影響がありました。会員の皆様におかれましては、日々の業務や生活において、様々な制約や変化への対応が続いた一年ではなかったかと思

ます。

さて、近年の森林・林業を巡る状況は、戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎え、豊富な森林資源の循環利用に向け、新たな木材需要の創出や安定的・効率的な国産材の供給体制の構築等による林業の成長産業化の実現と森林資源の適切な管理を両立させることが課題となっています。

こうした中、森林の経営管理の集積・集約を進めるため「森林経営管理制度」が推進されており、多くの市町村で、森林所有者への森林経営に関する意向調査が始まっています。県においても、昨年4月に林業技術研修棟を新たに整備し、市町村・林業経営体に向けた研修の充実化を図るなど、制度の推進に向け、市町村等への総合的な支援に取り組まれています。

また、県では、県政推進の羅針盤である「第3次新晴れの国おこやま生き活きプラン」が昨年からスタートし、安心で豊かさが実感できる地域の創造に向けた様々な施策が展開されているところであり、その一環として、次世代を担う力強い担い手の確保・育成や、少花粉スギ・ヒノキ等への植え替えの促進などに努められています。

こうした、国・県・市町村の

策が円滑に実施され、実りある成果をもたらすため、当普及協会といたしましては、引き続き、機関誌「林声」の発行や林研グループの活動支援などを行い、会員相互での最新の林業情報や林業技術の共有に努めていくとともに、森林・林業の大切さや木材の良さをより広くPRし、地域の森林・林業関係者の地域ネットワークづくりに貢献していく所存です。

なお、本年は中国・四国ブロック林業研究グループコンクールが本県において開催されます。当協会としましては、林研部会を中心に活動発表や現地視察など、県内外の林業研究グループとの活発な交流が図られるよう支援してまいりますので、会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、このコロナ禍が一日も早く収束し、会員の皆様にとりまして、新しい年が未来に向けた躍進の年となりますよう、ご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



**岡山県産材合板について** 岡山県森林組合連合会 *Jforest* TEL : 086-236-6530

本年もお引き立ての程、宜しく申し上げます。皆様方からの多くの出荷をお待ちしております。

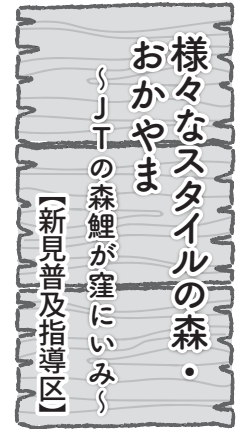
さて、この度岡山県で生産された 森林認証材を林ベニヤ産業(株) (本社:大阪市) と連携して「岡山県産材合板」として製品化しました。合板は長さ 182 cm、幅 91 cm、厚さ 1.2 cm でヒノキとスギを重ねて貼り合わせた 5 層構造となっています。

※興味のある方または購入を検討される方は、下記までご連絡下さい。

岡山県森林組合連合会 木材センター TEL : 086-284-0299



鯉が窪池周辺の状況



### 一 はじめに

新見市は岡山県北西部に位置し、総面積の86%が森林で、その約58%が人工林で占められ、人工林率が高い地域です。

同市哲西町では、新見市と日本たばこ産業株式会社が協力し、鯉が窪湿原を含む約52畝の市有林で森林整備が行われており、今回はこの取組みについてご紹介します。

### 二 鯉が窪湿原

新見市哲西町矢田地区にある鯉が窪自然環境保全地域は、市西部に位置し、鯉が窪池を中心とした湿原やその周辺の森林からなり、約35畝の広さがあります。また、標高550mに広がる湿性植物群落は、希少かつ植物地理学上貴重な植物をはじめ、多数の湿性植物が自生し、国指定天然記念物に指定されています。

### 三 J-Tの森鯉が窪にいみ

日本たばこ産業株式会社は、葉たばこや紙等の自然由来の原料を使用するため、事業を支える自然への感謝と企業の社会貢献の一環として、環境保全活動を全国で進めており、地域社会との交流や発展に寄与することを目的として活動しています。

新見市と日本たばこ産業株式会社は、平成28年11月15日（協定締結日）から令和4年3月31日までの間、市有林内で行う森林保全活動に関する協定を締結しました。

### 四 森林保全活動への取組み

協定に基づく森林保全活動には、新見市が実施する間伐等の森林整備活動と、日本たばこ産業株式会

社の社員等が参加する体験活動があり、体験活動では、地域住民と交流を図りながら、社員の環境教育研修が実施されています。平成29年度から森林保全活動を行い、令和3年度までに体験活動を計7回実施し、中国五県のJ-T関係者及びその家族をはじめ、地元林業関係者や地域住民など延べ千人が参加しました。



少花粉スギ苗木の植栽状況

活動内容は、間伐・除伐・枝打ちをはじめ、散策道・作業道の修繕、スギ苗（少花粉）等の植栽、ウサギの食害対策、少花粉スギ植栽モデル林周囲への防獣ネットの設置等を行いました。

また、木製ベンチやペン立て、

ブツポウソウの巣箱作り等の木工体験や、シイタケのほだ木づくりなど、様々な保全活動を行いました。



森林保全活動の参加者で記念撮影

### 五 今後の取組み

「J-Tの森鯉が窪にいみ」での活動を通じて、森林・林業の大切さを伝えることが出来ました。

今後、新見市ではこの森林保全活動等への気運の高まりを継続し、地域の実情に合う森林整備に取り組んで行くことから、引き続き支援・協力していきたいと考えています。

（新見普及指導区 岡田 和久）





一 はじめに

前田林業(株)は、鏡野町布原に事務所を置き、津山市を中心とした北部地域において、素材生産を行う認定事業体です。  
 今回は、代表取締役の前田光徳氏(37歳)から会社の概要についてお話を伺いました。



前田社長(左側)と湯原顧問

二 前田林業(株)の概要

前田林業(株)は、平成28年2月に、

前田氏が設立した会社で、現在6年目になります。

会社設立前の平成26年には、グループ会社である前田畜産運送(有)が、取引先である関東地方のシイタケ生産者に菌床シイタケ栽培用のオガ粉を運搬していました。しかし、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響で、生産者からシイタケ栽培用の原木が足りないから調達してほしいとの要望があり、当時、前田氏と社員1名でシイタケ栽培用の原木を生産から販売までを手がけたとのことでした。

その後、前田畜産運送(有)が未利用材によるバイオマス発電用のチップを製造することになり、その材料を調達するために会社を設立し、スギ、ヒノキの素材生産を始めました。

三 現在の状況

現在は、役員2名、現場作業員8名の計10名で、津山市森林組合・作州かがみの森林組合や他の事業体と協力して森林整備を行っています。

現場作業員の年齢構成は10代が1名、20代が2名、30代が4名、50代が1名で平均年齢は32歳で、林業経験3年以内は2名となっています。

作業システムは、チェーンソーによる伐倒、ウインチ付きグラブ

プルによる木寄せ、ハーベスタによる造材、グラブプルによる積み込み、フォワーダによる搬出となっており、グラブプル2台、ハーベスタ1台、フォワーダ3台及び作業道の開設時に使用するフェリングヘッド付きフォーク収納型グラブプルバケット(フェラーバンチャザウルス)2台を所有しています。



間伐作業(国有林)

四 今後の目標

現在、約10,000立方分のスギ、ヒノキの素材生産を行っています。スギ、ヒノキの素材生産を行っていますが、今後は、現場作業員の人材育成を図りながら作業班を充実させるとともに、植栽・育林事業にも挑戦し、SDGs(持続可能な開発目標)へも貢献したいと

のことで。

また、岡山県の林業を盛り上げていけるような存在でありたいとお話を伺い、林業に対する熱い思いを感じました。



現場作業員の皆さん

五 終わりに

前田林業(株)は前田氏をはじめ、多くの若い方が活躍されており、作業現場を訪問した時は、一人一人が生き生きとした姿で作業をされていました。

当普及指導区では、さらなるご活躍いただけるよう、引き続き支援していきたいと考えています。

(津山普及指導区 野崎 晋也)

普及指導  
情報提供

# 高梁城南高校の 高性能林業機械体験研修等について

〔高梁普及指導区〕

高梁市の高梁城南高校には、環境科学科という地域の農業や環境を学ぶ学科があり、森林・林業についても学習する授業を設けています。今回は、同校が取り組んでいる「高性能林業機械体験研修」と「木材に関する校外学習」について紹介します。

## 一 高性能林業機械体験研修

令和3年8月24日、高梁市有漢町大平山の市有林において、環境科学科の2年生22名が参加し、高性能林業機械体験研修が開催されました。

昨年度までは、農林水産総合センター主催の高性能林業機械体験研修に参加していましたが、研修現場に行くまでに時間がかかり、研修時間が十分に確保できないという課題がありました。

このため、当普及指導区から、高梁市とびほく森林組合に協力を呼びかけたところ、高梁城南高校の研修が地域林業の担い手確保につながることから、高梁市はフィールドの提供を、びほく森林組合は高性能林業機械の操作指導について対応してもらえ、こととなりました。また、高梁市は、森林環境譲与税を活用し、研修に必要な物品の購入なども行いました。研修では、まず、林業普及指導

員から岡山県の森林・林業の概要やチェーンソーの操作方法等の説明を行い、続いて森林組合による高性能林業機械のデモンストレーションが行われました。その後、生徒たちはハーベスタ、フォワーダ、フェラーバンチャザウルス、チェーンソーの各4班にそれぞれ分かれて機械操作の実習を行い、林業の一連の作業システムに触れました。



チェーンソーの仕組み等について説明

生徒たちは初めての林業機械の操作に戸惑いながらも、オペレーターのアドバイスを受けながら、一生懸命に取り組んでいました。

後日、生徒からは「機械の操作は難しかった」、「学校では出来ない貴重な体験が出来た」、「職業選択の参考にしたい」といった感想が寄せられました。



オペレーターの指導のもと機械操作を体験

## 二 木材に関する校外学習

例年、林業の盛んな真庭地域で木材に関する校外学習を実施しており、今年度は10月7日に環境科学科の1年生37名が参加して林業や木材について学習しました。

事前に学校側と普及指導員が学習内容を協議し、学校側の意図をくみ取った内容とし、また、真庭普及指導区とも連携し、視察先等との連絡調整を行いました。

当日は、木材を使った施設として真庭市立中央図書館と真庭森林組合を見学するとともに、県森連勝山支所で原木市場を視察しました。また、勝山木材ふれあい会館で、岡山県建築士会真庭支部の指

導による木工体験（本棚作成）を行いました。原木市場の大量の木材やその香りに驚いたり、真庭市立中央図書館や真庭森林組合での多様な木材の使われ方に感心したり、本棚作りに取り組んだり、木材について五感を通じて体感できたように見受けられました。多くの生徒は、木工体験に悪戦苦闘していました。が、一番印象に残ったようです。



本棚作りに懸命に取り組む

## 三 おわりに

高性能林業機械体験研修や木材に関する校外学習を通して、一人でも多くの生徒が林業に興味を持ち、魅力ある職業として感じてもらえれば幸いです。高梁普及指導区では、将来を担う若い世代の方が森林・林業に関心をもち、協力できるように、引き続き支援・協力を

（高梁普及指導区 若林 彰）



研究  
だより

ナラ類集団枯損についての  
調査研究



一 はじめに

平成21年にナラ枯れが県内で初めて確認されて以降、被害は拡大しており、令和3年には県北の発生地から離れた岡山市などの県南での発生が複数確認されています。こうした中、既存手法にとられない、被害の程度や地域の実情に合った効率的な防除方法が求められています。

また、被害対策には被害木の早期発見が重要ですが、道路からの目視や踏査等による被害の把握には限界があるため、ドローン等を用いた効率的な調査方法の確立が必要となってきました。

二 これまでの成果

①ナラ枯れに強い林分への  
誘導技術の検討

現在、真庭市の蒜山地域でカシナガトラップ（以下「トラップ」という。）を利用し、ブナ科樹木をカシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」という。）の繁殖に適さない「穿入生存木」へ早期に転換させる技術について調査を行っている

ます。

「穿入生存木」とは、カシナガに穿入されたが、生き残った木のことです。穿入生存木はカシナガの穿入孔から樹液が流出している場合が多く、カシナガが繁殖困難になると考えられています。さらに、翌年以降もカシナガの繁殖に適さない性質を有すると考えられています。



カシナガトラップ

令和元年度は、真庭市中蒜山のトラップ設置林分での枯死は発生せず、被害抑制効果が確認されました。

令和2年度は、真庭市蒜山の塩釜の冷泉周辺林分にトラップを設置し、被害軽減効果を調査したところ、実施前にはブナ科樹木の約2割の木が穿入生存木でしたが、実施後には7割以上となり、枯死

は1割程度に止まりました。

②被害木の探査技術の検討

ドローンを用いて被害木の詳細な位置情報の把握を行った結果、事前に入山位置やルート決定について、効率化が図れました。

三 今後の調査研究について

①ナラ枯れに強い林分への  
誘導技術の検討（継続）

引き続き、真庭市蒜山でブナ科樹木の状態の推移を調査することとしています。

②被害木の探査技術の検討

被害木の早期発見を難しくしている要因の一つに、穿入生存木の存在があります。穿入生存木の一部（フラスが多いものなど）には、カシナガが繁殖しているものがあり、その場合は、翌年には次世代成虫が周辺地域に飛び、被害が拡大するおそれがあります。

しかし、穿入生存木は枯死してないため、遠くからでは健全木との区別ができません。この状態の木を発見できれば、早期対応が可能になりますが、現在のところ、フラスの有無を木の根元まで行って確認するため、大変な作業となります。

農業分野ではNDVI（正規化植生指数）を用いた生育状況の管理が実用化されています。この指標は植物による光の反射の特徴から植生の状況を把握することを目的として考案されたもので、植物の量や活力を表しています。

穿入生存木は、葉が枯れていませんが、カシナガの穿孔により、肉眼では確認できない何らかの生理的異常現象を引き起こしている可能性があります。

この技術などを用いることで、ナラ枯れ早期発見の可能性について、今年度導入したマルチスペクトルカメラをドローンに搭載し、調査することとしております。

四 最後に

ナラ枯れは景観の悪化のみならず、森林の持つ公益的機能の低下が懸念されることから、効率的な防除対策のために、引き続き当該研究に取り組んでまいります。



ドローン (MATRICE300RTK)



マルチスペクトルカメラ

（林業研究室 矢野 舞依子）

研究  
だより

香りを評価指標とした乾燥技術の開発  
— 香り高い県産ヒノキを生産するために —

木材を構造材等に適切に使用するためには、乾燥させ、寸法や強度を安定させることが重要です。かつて天然乾燥が主流だった木材乾燥は、生産コストや乾燥速度などの技術開発を背景に、蒸気式を中心とした人工乾燥に置き換わり、令和2年における県内の人工乾燥材生産量は106千m<sup>3</sup>で、全製材品生産量の67.9%を占めています。また、乾燥材の生産量の8割強がヒノキであり、県内でヒノキ材の人工乾燥が盛んに行われていることが分かります。

ヒノキ材は、市場ではその強度や耐久性の高さから評価されますが、特有の香りを有している点も見逃せません。以前行った県民へのアンケートによると、多くの方が、特有の香りにヒノキの良さを見出していました。アロマや入浴剤にも用いられるこの香りは、製品の付加価値をさらに高める可能性も十分あると考えられます。

しかし、ヒノキ材の香りは人工乾燥工程で損失・変質し、本来の香りを失う場合があることも知られています。図1は異なる乾燥方

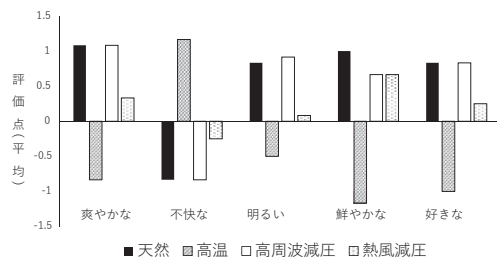


図1. 各乾燥材の官能評価

法で乾燥されたヒノキ柱材の香りを官能評価で分析した結果です。天然乾燥材や高周波減圧乾燥材が好意的な印象で評価

された一方、現在主流である高温乾燥材の香りは、あまり好まれない傾向にありました。このように、香りは乾燥工程において主に熱の影響を受け変化します。これを防ぎ、ヒノキ本来の香りを残したまま乾燥する方法を開発することが本研究の目的ですが、そもそもなぜ乾燥により香りは変化してしまうのでしょうか。

ヒノキはセルロース、ヘミセルロース、リグニンといった成分で構成されますが、それ以外にも数%程度の抽出成分（溶媒に溶ける

成分）を含みます。その中にはタンニンやフラボノイド、リグナン類、テルペン類などがあり、ヒノキの香り成分は、このテルペン類のうちモノテルペンやセスキテルペンという比較的沸点が低く、揮発性の高い成分群が主体となっています。これらの成分は、水蒸気蒸留により精油（写真1）として抽出可能なように、熱により揮発しやすいため、木材乾燥の工程で揮発し失われている可能性が考えられます。



写真1. 抽出された精油

また、ヘミセルロースは、針葉樹の場合、ガラクトグルコマンナンとアラビノグルクロノキシランから構成されますが、前者にはアセチル基が付加しており、熱により加水分解し酢酸を生成すること、後者は熱により分解し、フルフラールを生成することが知られています。図2に、高温乾燥材から揮発する成分をGCMS（ガスクロマトグラフィ質量分析計）で測定した結果を示します。

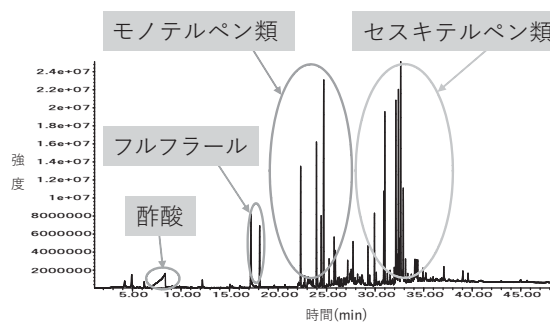


図2. 高温乾燥材の揮発成分GCMS分析結果

高温乾燥材では爽やかなヒノキの香りであるテルペン類も見られますが、酢酸やフルフラール等の異臭成分も発生していることがわかります。つまり乾燥で香りが変化するメカニズムには、「テルペン類の揮発減少」「ヘミセルロース

分解による異臭成分の形成」の二つの要因があり、それらを抑制することができれば、香りを残すことができるものと考えられます。

本研究では、今後、これら乾燥因子（温度、湿度、減圧等）との関係を詳細に分析し、香りを失わない条件を見出し、その結果をもとに、実際の乾燥方法として確立することを目指していきます。

（木材加工研究室 松田洋樹）



## 岡山県における 花粉発生源対策の 取り組み



スギやヒノキの花粉が主な原因となる花粉症は、国民の約4割が罹患し、今や国民病ともいわれ、その対策が課題となっております。

このため、県では、県政の最上位計画である「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」において、令和6年度までに少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えの割合を100%とする目標を掲げ、「苗木の安定供給対策」、「植替えの促進」、「普及啓発」、「生育状況等調査」の4つを柱に、花粉発生源対策に取り組んでいます。

今回は、苗木の安定供給対策として12月15日に開催した茨城県との「少花粉スギ苗木等生産技術研修会」、そして普及啓発として12月18日に開催した「スギ・ヒノキ花粉削減対策シンポジウム2021」についてご紹介します。

### ○「少花粉スギ苗木等 生産技術研修会」の開催

少花粉スギコンテナ苗の生産技術向上を図るため、県内の苗木生産者を対象に、少花粉スギ生産の先進県である茨城県の苗木生産者



室内研修状況

3名と茨城県林業技術センターの職員2名をお迎えし、研修会を開催しました。

午前中は、森林研究所研修棟で両県の取組や苗木生産方法等の説明を行い、午後からは苗畑に移動し、コンテナ苗の生産における管理方法についての技術交流を行いました。



現地研修状況

コンテナに当たる日光の根鉢への影響を考慮した管理方法や、培地に使用する土等の配合、病虫害防除に用いる薬剤の使用方法など具体的な内容について活発な意見交換が行われ、とても有意義な研修となりました。

### ○「スギ・ヒノキ花粉削減対策 シンポジウム2021」の開催

花粉削減により花粉症ゼロを目指す「スギ・ヒノキ花粉削減対策シンポジウム2021」（主催：一般社団法人全国林業改良普及協会、後援：林野庁）が、岡山市北区の三木記念ホールにおいて開催されました。

と治療や来年の花粉飛散予測などを一般県民に広く普及することを目的に開催され、約100名の参加がありました。

県からは、森林研究所の研究者による花粉発生源対策の取組についての講演や、県の対策を紹介するパネル、少花粉コンテナ苗及び種子の実物を展示するなど、スギ・ヒノキ花粉削減対策の取組等について幅広く紹介しました。

参加者からは、「県や国の花粉削減対策について知ることができた」、「木材を利用することが花粉症対策につながる事が分かった」などの声がありました。



シンポジウム状況

シンポジウムは、国や県の花粉削減対策の取組みや最新の研究成果のほか、医師による花粉症予防

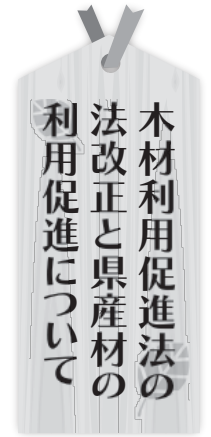


コンテナ苗等展示状況

治山課では、今後も国や各都道府県との連携した取組みを進め、花粉の少ない森林づくりに取り組んでまいります。

（治山課 造林班）





一 木材利用促進法の改正

国は、公共建築物等木材利用促進法を改正し、昨年10月1日に施行した脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（以下「法」という。）において、木材利用促進の対象を公共建築物から建築物一般に拡大しました。

法では、民間建築物を含め、木材利用を一層促進するため、法に基づく基本方針において、低層の公共建築物を原則木造化するこれまでの方針から、コストや技術面で困難なものを除き、公共建築物は原則木造化することとされました。また、県、市町村の方針にも、建築物全体での木材利用の促進の施策等を定めることとされました。

二 県産材利用促進指針の改訂

県では、岡山県県産材利用促進条例に基づき指針を策定し、公共建築物、木造住宅、販路開拓、CLTなどの利用促進や普及促進等の施策を実施しているところです。策定から4年を経過し、森林、

林業、木材産業及び木材の利用を取り巻く社会経済情勢に次のような変化が見られることから、指針の改訂を進めています。

- ・人工林資源は充実し、本格的な利用期を迎え、林業サイクルの循環の推進が重要となっている。
- ・今般、外国産木材の供給リスクが顕在化し、県産材の安定供給体制の整備と、さらなる需要拡大が重要となっている。
- ・耐震・防火性能等の技術革新や建築基準の合理化がなされ、CLTの普及が進んでいる。
- ・建築物全体での木材利用の促進のため、公共建築物等木材利用促進法が改正された。

【改訂素案の主な内容】

- ・実施期間は令和4～8年度の5か年とする。
- ・国の基本方針に即する。
- ・21おかやま森林・林業ビジョンと目標を共有し、県産材生産量（580千m<sup>3</sup>/年）の達成に資するものとする。
- ・県産材の適切かつ安定的な供給体制の整備を推進し、森林認証材や県産乾燥材を需要拡大する。
- ・県民及び事業者は県産材の利用促進に自ら努め、県産材の利用促進に協力するよう努める。
- ・建築物木材利用促進協定制度の活用等により関係事業者相互の

連携・協力を努める。

- ・対象を公共建築物から非住宅建築物に拡大し利用促進する。
- ・県産材利用相談に応じる人材育成や消費者に届くまでのサプライチェーンの構築を促進する。
- ・県産材利用の意義等について、関係団体等と連携し、県民等へ普及・PRする。
- ・県が整備する公共建築物における県産材の利用目標量を現況の110%（単年度平均）とする。



経済団体と県が連携した県産材利用に向けたシンポジウム・PR冊子



県が整備した公共建築物における県産材の利用  
(森林研究所林業技術研修棟)

三 終わりに

国は、建築物に利用した木材の炭素貯蔵量を見える化するため、標準的計算方法と表示方法のガイドライン（注1）を公表しています。地球温暖化防止への貢献として活用をご検討いただくとともに、県としても、関係団体・事業者、市町村等と連携し、建築物への一層の利用促進をはじめとした県産材の需要拡大に引き続き取り組んでまいります。

（注1）林野庁ホームページ

「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」

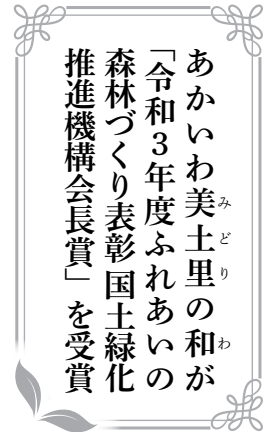
（林政課 林業木材班）



2021年1月 発足10周年記念植樹祭

隣接する市所  
有の保安  
林におい  
て、生物多  
様性を維  
持する山  
づくりを  
組んで11  
年目を迎  
え

赤磐市で森林ボランティア団体として活動する「あかいわ美土里の和（会長 白石 齊）」が標題の賞を受賞しました。  
このふれあいの森林づくり表彰は、住民等のふれあいの場となる森林づくりの推進に顕著な実績をあげた団体等が表彰されるもので、最優秀賞にあたる国土緑化推進機構会長（衆議院議長）賞が全国4団体に授与されたものです。  
あかいわ美土里の和は、平成23年5月に発足、赤磐市の住宅地に



活動内容を発展させながら、継続的に都市型の里山再生に取り組み、あかいわ美土里の和の今後益々のご活躍を期待しています。  
(赤磐市 農林課)



白石会長(左)と南事務局長(右)

ています。自然観察会や体験会の開催等が、地域住民の交流や森林づくりへの参加の場となり、近年では、市外からの参加者も増え、年間平均延べ約三百名の方が活動しており、これらの継続した活動が評価されたものです。  
伝達式は、本来ならば、10月10日、北海道での第44回全国育樹祭にて実施されますが、今回はコロナ対策で、地元赤磐市長から伝達を行いました。白石会長は、「ここ数年、若い世代の参加が増えてい。世代交代につながるような新たな活動にも取り組んでいきたい。」と抱負を語られました。

## 技能講習会の開催 (2月~3月)

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名称	会場	日程	申込・問合せ先
伐木 (特別教育)	津山	2月16,17日 (実技) 2月18日	林業・木材製造業労働災害防止協会 岡山県支部 TEL(086)236-7077
小型移動式クレーン運転	岡山	3月17,18日	一般社団法人 岡山県労働基準協会 TEL(086)225-3571
玉掛け	岡山	2月3,4日、3月5,6日 3月10,11日	
	玉野	3月8,9日	
	笠岡	2月14,15日	
	津山	2月24,25日	
フォークリフト運転	岡山	2月2日、2月19日 3月2日	
	笠岡	2月16日	





## 林 産 物 市 況

### ●木 材 (12月22日)

単位：千円/m<sup>3</sup>

樹種	長さ	径 級	直材	小曲り	樹種	長さ	径 級	直材	小曲り
杉	3 m	1 4～1 6	14	8(曲り)	桧	3 m	1 4～1 6	30	20
		1 8～2 0	14	8(曲り)			1 8～2 0	21	20
		2 2～2 8	14	8(曲り)			2 2上	22	18
	4 m	1 8～2 0	12	10		4 m	1 6～1 8	30	27
		2 2～2 8	12	10.5			2 0～2 2	27	26
		1 6～1 8	—	13			2 4～2 8	26.5	26
・出荷材積				約2,300m <sup>3</sup>	6 m	1 6	40	—	
						1 8～2 0	45	—	

(共販所より概況)

#### 杉概況

- ・並材 3m, 4mは横這いで推移
- ・元木良材は引き合いが強く、高値で取引

#### 【3m】

柱 材 横這い  
中目材 横這い

#### 【4m】

中目材 横這い  
元 木 横這い

#### 桧概況

- ・3mの相場は安定

#### 【3m】

柱 材 横這い  
中目材 横這い  
元 木 横這い

#### 【4m】

柱 材 横這い  
中目材 横這い  
元 木 横這い

資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値

### ●製 材 (12月)

樹 種	寸 法	等級	区分	安 値 ～ 高 値 (円/m <sup>3</sup> )	備 考
ス ギ	正角 3m 10.5cm角	特等	K	100,000～	
	正角 3m 12cm角	特等	K	95,000～	
ヒ ノ キ	正角 3m 10.5cm角	特等	K	140,000～	
	正角 3m 12cm角	特等	K	120,000～	
	正角 4m 10.5cm角	特等	K	140,000～	
マ ッ	正角 4m 10.5cm角	特等	K	120,000～	
	平角 4m 10.5～12cm ×15～18cm	一等	K	75,000～	
米 マ ッ	正角 3m, 4m 10.5cm角	特等	G	95,000～	
	平角 3m, 4m 10.5 ×15～21cm	特等	G	90,000～	
北洋アカマツ	タルキ 4m 3.8cm角	特等	K	130,000～	
ホワイトウッド	間柱 3m 2.7cm×10.5cm	特等	K	130,000～	

注1：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。 注2：区分のKとは人工乾燥材、Gとは未乾燥材のこと。

### おかやまの木で家づくり支援事業

✓助成金額：最大24万円/戸  
 ✓助成対象者：県内において住宅を新築または改修される施工業者（大工、工務店等）

詳細は  
コチラ

<http://www.kaiteki-kinoie.or.jp/subsidy.html>

一般社団法人岡山県木材組合連合会

〒700-0902 岡山市北区錦町1-8(岡山県木材会館内)

TEL(086)231-6677 FAX(086)232-7549

木

を通して環境保全に貢献しています

公園修景施設・土木用資材

防腐処理・ログハウス・デッキ

さんもく工業株式会社

〒702-8045 岡山市南区海岸通2丁目6番3号  
TEL 086-262-0137(代) FAX 086-262-0130

日本植生は環境緑化技術を創造し、地球環境の保全に貢献します。

間伐材利用植生基材マット	間伐材利用植生マット	間伐材利用生分解型植生マット	間伐材利用生分解型植生シート	間伐材利用植生シート
<b>グリーンフォーマット</b> 切土軟岩用	<b>森樹郎マット</b> 切土土砂用	<b>森樹郎マット21</b> 切土土砂用	<b>張りウッド</b> 盛土用	<b>ハリシバモック</b> 盛土用


 「岡山県エコ製品」の認定を受けた5品目  
 間伐材を有効利用した環境緑化資材です。  
 NETIS登録：CB-010046-A 間伐材利用植生マット工法「森樹郎(シンキロウ)マット工法」

太陽と緑の国づくり  
**Nihon 日本植生株式会社**  
<http://www.nihon-shokusei.co.jp/>  
 津山支店 / 津山市高尾 580-1 TEL (0868) 28-0256  
 岡山事務所 / 岡山市北区芳賀 5325 TEL (086) 294-1000



緑あふれる環境づくり

**株式会社 山都屋**

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号  
 TEL (086) 272-2161 FAX (086) 272-2142  
<http://www.yamatoya-net.com>  
 大阪営業所 津山営業所 水島営業所

優良種菌で確かな収穫

**もりのたねごま**

◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造 総発売元 **森産業株式会社**

岡山営業所 岡山市北区辰巳46-104  
TEL 岡山(086)805-7033(代)

「もしも」に備えて・・・森林保険があります！

**FOREST INSURANCE**

**森林保険**

加入できる森林は？ 人の手が加わった森林  
 加入期間は？ 1年単位で何年でも！  
 保険金がでるのは？  
 火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。  
 岡山県では過去5年間で約4千5百万円の保険金が支払われました。

ご契約のモデルケース (1haあたり)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…1年 保険期間…5年 保険金額…最大188万円 一括払いだと27,444円(5年間計)	樹種…ヒノキ 契約時林齢…26年 保険期間…5年 保険金額…最大299万円 一括払いだと43,325円(5年間計)
--	---

1ヶ月あたり約460円 → **わずかおむすび 4個分**  
 1ヶ月あたり約720円 → **わずかラーメン 1杯分**

○保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。  
 ○条件によって契約金額が変わってきます。

○お申し込み、お問い合わせはお近くの森林組合まで。



ほっけー木になる情報

**Q. 銃猟を始めるために必要な手続きと、猟銃の安全な取扱いについて学べる機会がありますか？**

**A.** 銃猟を始めるためには、主に2つの手続きが必要です。

1つ目は、狩猟免許と狩猟者登録です。県では、年間6回狩猟免許試験を実施しており、これに合格すると狩猟免許を取得できます。そして、狩猟免許を所持している方は、毎年10月に狩猟者登録をすることで、狩猟ができるようになります。

2つ目は、猟銃の所持許可です。警察が実施する猟銃等講習会や射撃教習を受講し、さらに技能検定に合格することで、所持許可証が交付され、猟銃を所持することができますようになります。

これらの手続きにおいて、安全な取扱いについて学ぶことができますが、県ではさらに実践的な銃の取扱いや捕獲技術の向上を目的に、新たに第一種銃猟免許を取得した方を対象として、マイスター

研修や銃猟入門セミナーを開催しています。その中で、安全な取扱いについて、次のこと等に留意するよう説明しています。

①必要に応じた実包の装填と脱包の徹底

発砲の必要が生じる直前まで実包は装填しないこと、また、銃を置く時、銃を持って移動する時などは、必ず脱包の確認を行うこと。

②銃口は人や建物等に向けないこと  
実包を装填していなくても、銃口は絶対に人や建物、車両等に向けないこと。

③発砲時の矢先の確認の徹底

銃猟の際、対象に狙いを絞って注視すると、周囲の情報は視界に入りにくくなります。狙う前からの周囲の安全確認や、猟期前の射撃練習などで照準を合わせる練習をすること。

研修の日程や安全狩猟に向けたお知らせは、県ホームページでお知らせしています。興味のある方は、ぜひご参加ください。

【鳥獣害対策室ホームページ】  
<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/328/>

(鳥獣害対策室)

— 安全・人と自然・調和 —

美林を育てる

【林地除草剤】ザイトロンフレノック微粒剤・ザイトロン微粒剤・フレノック粒剤・ケイピンエース  
造林木を野生動物の食害から守る

【野生獣類忌避剤】ランテクター水和剤・コニファー水和剤

【幼齢樹保護カバー】くわんたいⅡ 【樹皮食い防止】バークガード・美樹巻夫

【樹幹注入剤】マッケンジー・マツガード・他 【野生草食獣侵入防止】防獣ネット・他

お問い合わせ申込みは県森連・森林組合へ

販売：日植アグリ株式会社

販売元：大同商事(株)大阪営業所

TEL.086-292-5525

TEL.06-6384-1288



GP-532 小型ハイパワープロセッサ  
IWA FUJI INDUSTRIAL CO., LTD.

shindaiwa

高性能大型林業機械から電動工具まで何でも揃う

**美津吉商事株式会社**

津山市一方 194 〒708-0883 TEL(0868)23-2255  
<http://www.mitsuyoshi.com/>

林声

令和四年一月一日（第四八一号）  
（隔月一日発行）

森林・林業施設の紹介

遥照山「藤波池キャンプ場」

このキャンプ場は、浅口市北部の遥照山山頂部に位置する自然豊かなキャンプ場です。池畔を構成しているアカマツ林や、1985（昭和60年）国際森林年記念として植栽されたイロハモミジなどの樹木が癒しの空間を作り出し、市民が身近に親しめる森林として活用されています。池のほとりには、テントサイトやバンガローが整備され、多くの家族やグループが自然とのふれあいを楽しんでいます。隣接している遥照山総合公園では、アウトドアが楽しめる多目的の広場やテニスコートが整備されており、地域の大切なふれあいの場として利用されています。また、東展望所からは、瀬戸内海を眺めることができ、日本夜景100選や映画「8年越しの花嫁」のロケ地で知られています。

その他、遥照山には、国立天文台や京都大学岡山天文台があり、天体観望会では、宇宙の神秘を体験できます。

（井笠普及指導区）



眺望（瀬戸内海・水島方面）



藤波小池とアカマツ林



キャンプ場バンガロー

編集  
発行

〒701-1202 岡山県森林組合連合会内  
岡山市北区檜津四九一―一  
岡山県林業改良普及協会

緑豊かな自然を守る

治山・林道事業の普及啓発、技術援助  
治山・林道の調査、測量、設計、積算  
森林整備・森林公園の総合計画

一般社団法人 岡山県森林協会

岡山市中区高屋 225-1 TEL 086-271-3711  
津山市二宮 1849-2 TEL 0868-28-9360



「緑の募金」ご協力をお願いします

緑の募金で進めようSDGs（持続可能な開発目標）

募金期間

春のみどりの月間  
4月1日～5月31日

秋のみどりの月間  
10月1日～10月31日

口座振込は  
こちらへ

ゆうちょ銀行	01270-0-5225
中国銀行岡山駅前支店	1852041
トマト銀行岡山駅前支店	1027972

寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会

岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086) 221-9511



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。